

「微生物学的検査」 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、微生物学的検査におきまして、各種ガイドラインや要望事項を反映させた見直しを実施し検査の報告表現の一部を変更させて頂きたくご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、弊社事情をご賢察のうえご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

変更項目

- [塗抹鏡検] 細菌顕微鏡検査・一般細菌（グラム染色）
- 培養同定検査 ※

※ 一般培養、特殊培養及び、真菌培養検査が変更の対象となります。

変更実施期日

平成 24 年 9 月 1 日（土）受付分より変更

変更内容

詳細は次頁以降をご参照下さい

◇電子媒体を用いて結果受信をされているお客様における注意点

- ・結果受信側システムにおいてマスター等の登録・変更が必要になる場合があります。
- ・その他、電子カルテ/オーダーリングシステム等との接続に問題がないかをご確認下さい。

尚、ご不明な点に関しましては、弊社、担当営業員へご相談下さい。

保健科学グループ



株式会社 保健科学研究所

本 社／ 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 TEL 045-333-1661

仙台支社／ 仙台市宮城野区扇町 1-3-5 TEL 022-236-9345

中部支社／ 名古屋市西区則武新町 2-20-17 TEL 052-582-3201

大阪支社／ 豊中市原田中 1-2-3 TEL 06-6843-5622

福岡支社／ 福岡市博多区山王 2-14-34 TEL 092-452-0851

新潟臨床検査センター

保健科学東日本

日本ノーバメディカル研究所

いかがく

組織科学研究所

ケーアイエー細胞病理研究所

カスタムメディカル研究所

遠州予防医学研究所

日本厚生団衛生科学研究所

湘南医化学検査センター

小田原衛検

相模医研

東部メディカルセンター

▼ [塗抹鏡検]細菌顕微鏡検査・一般検査(グラム染色)の報告表現

菌量の報告表現を自社設定から参考文献にもとづいた表現に変更いたします。また、検体の品質管理及び、感染症の指標として有用とされる「上皮細胞数」及び「白血球数」の報告を開始します。

① 菌量の報告表現の変更

(変更後)

報告表現	細菌数(鏡検倍率×1000)
陰性	認めず
1+	1視野あたり <1
2+	1視野あたり 1~5
3+	1視野あたり 6~30
4+	1視野あたり >30



(変更前)

報告表現	細菌数(鏡検倍率×1000)
陰性	認めず
少数	全視野あたり 1~数個
1+	1視野あたり 数個~10
2+	1視野あたり 11~100
3+	1視野あたり 101以上

② 報告内容の追加

現在の報告対象に『上皮細胞数』及び、『白血球数』を常時加えてご報告致します。

【報告基準】

報告表現	細胞数(鏡検倍率×100)
陰性	認めず
1+	1視野あたり <1
2+	1視野あたり 1~9
3+	1視野あたり 10~25
4+	1視野あたり >25

▼ 培養同定検査の報告表現

① 培地における菌量の報告表現

一般培養、特殊培養及び真菌培養検査について、菌量表現を参考文献に基づいた内容に変更いたします。但し、血液培養検査、ヘリコバクター・ピロリ培養の報告表現については、従来通りであり、変更はありません。

(変更後)	(変更前)
報告表現	報告表現 培地の発育状況
陰性	陰性 未発育
1+	少数 1/3 未満
2+	1+ 1/3 以上、2/3 未満
3+	2+ 2/3 以上
4+	3+ 培地全面

② 尿定量培養の報告表現

報告上限及び下限値の変更を実施します。尚、尿路感染症診断においては、「 10^3 CFU/mL かそれ以上」の尿路感染症起炎菌が陽性の場合、抗菌薬療法が考慮されるべきとされております。

また、尿以外(スワブ類、尿沈渣物など)の検体においては、正確な結果が得られないため報告対象外とさせていただきます。

(変更後)	(変更前)
報告表現 (CFU/mL)	報告表現 (CFU/mL)
報告上限値 $\geq 10^7$	10^7
報告下限値 (培養陰性時) $< 10^3$	0

CFU: Colony forming unit

▼ 参考文献

1. [塗抹鏡検]細菌顕微鏡検査・一般細菌(グラム染色): Clinical Microbiology Procedures Handbook 3rd Edition, American Society for Microbiology, Washington DC(報告表現)
2. 培養同定検査: 社団法人 日本衛生検査所協会 細菌検査 塗抹・培養 ガイドライン(培地における報告表現)
3. 尿定量培養: Cumitech 2C : Laboratory Diagnosis of Urinary Tract Infections (臨床的意義)

▼ 新報告表現による報告見本

【細菌顕微鏡検査(グラム染色)・培養同定検査の変更後の報告見本】

細菌学検査報告書			
コードNo	333-16	施設名	報告書サンプル 様 159-01
		カルテNo	
		患者名	ホケン タロウ 様
		検査No	07001
		採取日	24年 9月 1日
		受付日	24年 9月 1日 整理No 07001
1		検査材料	喀出痰 採取部位
[細菌顕微鏡検査]			
グラム染色			
グラム陰性桿菌	1+	グラム陰性双球菌	2+
グラム陽性桿菌	4+	グラム陽性球菌	1+
白血球	3+	上皮細胞	1+
[培養同定]			
		<i>Haemophilus influenzae</i>	1+
		<i>Moraxella(Branhamella) catarrhalis</i>	2+
		<i>Escherichia coli</i>	4+

グラム染色の報告表現が変更になります。(2頁参照)
 変更前: 陰性、少数、1+、2+、3+
 変更後: 陰性、1+、2+、3+、4+

グラム染色の報告対象に「白血球」と「上皮細胞」を追加します。(2頁参照)

培養同定検査における菌量の報告表現が変更になります。(3頁参照)
 変更前: 陰性、少数、1+、2+、3+
 変更後: 陰性、1+、2+、3+、4+

【培養同定検査(尿定量培養)の変更後の報告見本】

細菌学検査報告書			
コードNo	333-16	施設名	報告書サンプル 様 157-00
		カルテNo	
		患者名	ホケン タロウ 様
		検査No	07002
		採取日	24年 9月 1日
		受付日	24年 9月 1日 整理No 07002
1		検査材料	尿 採取部位
[培養同定]			
		<i>Escherichia coli</i>	4+
		尿定量培養	$\geq 10^7$ CFU/mL

培養同定検査における尿定量培養の菌量の報告上限及び下限値の表現が変更になります。(3頁参照)
 報告上限: $\geq 10^7 \leftarrow 10^7$ CFU/mL
 報告下限: $< 10^3 \leftarrow 0$ CFU/mL